

名古屋外大の複言語教育の実態と課題

—中国語・アラビア語・ポルトガル語・フランス語・イタリア語—

2017年度に全学化された「複言語プログラム」は、複数の言語能力の涵養を目指すにとどまることなく、異文化という他者を寛容し、またそれと共生する力や未知の世界への好奇心を培うことを目的としている。複言語教育は、まさに本学のような国際系の大学が本来最重要視すべきダイバシティの要を担う理念と言っても決して過言ではない。

本論集2号では、こうした複言語教育を概括、また現在の課題を報告したが、引き続き本号にて、諸言語の具体的教育内容や学生の状況などを詳らかにする機会が与えられた。今回は12言語のうち、中国語、アラビア語、ポルトガル語、フランス語、イタリア語の5言語である。各言語の担当者による報告を共通認識として全学にて共有いただければ幸いである。最後になったが、本特集を組んでくださった論集委員会に心からお礼を申し上げたい。

言語教育開発センター複言語部門 大岩 昌子